玉くしげ

玉くしげ 巻之

E V. 275

PL788
.4
.G4
1654
vol. 27
copy 1
Asian
Japan
Cage

2004551302

ほゝ民笑六又の秋の夜のつゝき

このごろ世の人のこゝろさまざまうちのおほいとの
(ほいと)
つゆ水ぞゝとくまれつゝひらくをゝ源氏乃
(ほゝ江玄)
おもひつゝめてゝ(ほゝ河)ともまれくもまれひとこゝろ
うごゝそてこゝろおこゝんをこゝをうをざりのごゝと
まそもごゝろまれめゝ(ほ)そゝくゝ人こゝろを
ひつゝくゝこゝそゝろえゝくまれひとくき
いゝこゝしゝ地しゝ給まるとゝおゝこゝろうをも
そゝのぞゝまてゝいゝそゝ心ゝとゝれこゝのごゝくゝそゝと
ゝるこゝろうべしゝこゝろゞのゝことゝまそゝるゝこゝこゝそ
ゝるごゝこゝろ地ゝまれとゝひとゝ(ほゝ)ごゝこゝろ
つゝてゝのゞこゝくゝこゝそゝまれとゝこゝろゝるごゝこゝも幸

ごろのれうろをもりぞ。これをもりまし。
もぐぐうしそとやわしもうとういの姫ぞんし
もうと。なをもらしうくそうしもうをうりうくされ
心。そもひそれどうりとそれうろのまうまし。
もうてもぐもそもうぶうとぐみうされうろ
のこもうりの人へやうくもうしうけそうて
ゆふ秋まもりめそ風すぐもくめうさ出てせこが
うろもうしうしそびしもうしうぶうのびれ
つうしもぐしくうりのそおりしまうしし。
れうしくるどもそしけしそうしゆふ六日のゆの
秋八もくいりて。すぐしをもれう鳥色。萩のもと

やうく表ちかきほどなりければ、（源氏の意を悟って）
ともまゐりあつまるけはひ、（気配）
きこえて、（源）
えをばつくり給ふんとて、おまへのこどもゞすきまへ
ざくらをれともちかきおとのさいふをおしてどもし
つけさせ給ひて、源ゐのおとゞやまのゐなかの
まつ（松）おどろくしうちみだれをかしきほどをきゝて
ゝとゝろくれがれ前のこえこゝすゞしを
おりてれど（折）のれ（枝）ふるひのやうなるおとのやうなるおと

人のおやしとなりひらべんこれこれ
むすこ(源氏)やとてつぎつぎまうでこの(光君)あいだ
ここちなどもいとさうざうしう(ふつかさん)笛の
音(ね)さへ(和琴)ことにひきあはせてをかしきほどに
月(つき)中将(源氏)の笛(ふえ)のねもいとおもしろくふきすまし
あそびの(源氏)ほどに(光君)ふえ(笛)ども(ふくべ)ふきまぜ(ふくべ)
おもしろきねとて(光君)ことにもりもの(ふくべ)
ふくべとりてすこしさぐりてをかしげ
なれどてにもとらずとてこれ(ふくべ)
もまたこれ(ふくべ)ひとつにてさんにんあり
ける。ふくべ(ふくべ)のこえ(ふくべ)ばかりにて
ふえ(笛)のねもあはりそうにてうち
なんとて(和琴)ことひきならしてをかしき
源中将(源氏)いとなんそうこいとおもしろく

乳の柏
中おろろづひしてうづくそぐろすを(保)
そしとあれが弁(柏ノ)のかれのやうしうちのそくし
のびやまうふるすぐしてまづひろうふる
ふうぐろうろうをかそ(保)こそ柏中およゆづ
をこうひのぼれちくおとくのれのまをと
り、おろくとろしずこれやまおもろしろし
(保)
子のそちよおくをろくへまれし治ん
しそひそろがおぐろしてをそうを
すぐろうひといをひちさのつうでうをのぐれめ
しくおそとのろまへばひのぐそもぼるおれと
ろくのふこえ(むんそ)をお中のれうぐうろうちろまづろ

拍子木
拍子木
拍子木

69038
6 AP78